

駿建

2014 Jan. Vol.41 No.4

日本大学理工学部建築学科 日本大学短期大学部建築・生活デザイン学科

SHUNKEN

Quarterly Journal of

Department of Architecture, College of Science and Technology, Nihon University
& Department of Architecture and Living Design, Nihon University Junior College

Special Feature


学生生活 実態調査 2014

- 僕たち私たち9人のリアルな生活アンケート -

Special Feature

学生生活 実態調査 2014

- 僕たち私たち9人のリアルな生活アンケート -



学生みんなは、実際にどんな生活を過ごしているのだろう？ どんな日常に包まれているのだろう？ どんな部屋に暮らしているのだろう？ 同じキャンパスや教室にいる、あなたと同じ「大学生」のことは、意外とお互い知らないものかもしれません。知りたいけど、そんなプライベートには、簡単に立ち入ることができない。

そこで、今回の特集ではランダムに選んだ9人の学生の方々に匿名で登場いただいて、アンケートに答えていただきました。題して「学生生活実態調査2014」。たった9人のサンプルですが、一人ひとりを読み込んで行くと、思わぬ個性に出会うことができるはず。

「ゆとり世代は、今の若者は……」なんて世間では言われがちですが、この9人から溢れてくるものは、みんなそれぞれが独自の価値観や魅力を確実に持ちながら、「大学生」という「今」を過ごしているということでした。あなたも心の中で、アンケートと一緒に答えながら、「今」を生きるあなたと同じ「大学生」たちの断片を見てみてください。

(Photo= Naoaki Yamamoto)

STUDENT01

- ♀・4年
- 千葉県出身
- 千葉県在住
- 実家暮らし
- 入試タイプ：付属B推薦
- 彼氏・彼女：有

Q1. あなたの部屋はどんな部屋？

部屋が狭いので、基本的に部屋には洋服とベッドしかありません。勉強やその他の作業はリビングなどでしています。ものが少ないのでこだわりはあまりありませんが、昨年上陸した「ZARA HOME」で購入したカーテンとベッドカバーがお気に入りです。よく友人が遊びに来るので、部屋が散らからないように心がけています。

Q2. 休日はどこへ行く？

土日はバイトのことが多いです。バイトも学校もない日には、できるだけ外出するようにしています。夏は地元仲間と車で千葉の海に出かけたり、野球場にプロ野球の観戦に行くことが多いです。冬は一日でも休みがあればスノーボードに出かけます。旅行が好きなので長期休暇がとれるときには旅行に行っています。

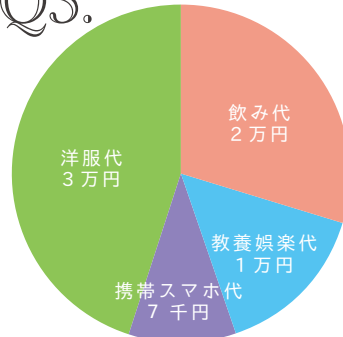
Q3. 僕・私の大学生活

- 平均週に何日大学に来る？：4日
- これまで一番楽しかった授業：構造設計
- 1コマ授業が空いたとき、どこで過ごすことが多い？：NEW YORKER'S Cafe
- ランチベスト3：no.1「7号館前の広場」no.2「クアアイナ」no.3「たんぼぼ」

Q4. アルバイト・仕送り・奨学金

- アルバイト職種：アパレル関係
- アルバイト週平均：3回
- アルバイト収入月平均：7万円
- これまでのアルバイト経験：6つ
- 建築系アルバイト経験の有無：無
- 奨学金制度の利用：無

Q5. 出費バランス



Q6. 交友・趣味・ファッション

- 月に何回くらい飲みに行く？：5, 6回
- サークル：無
- 交友関係：地元関係 40%、大学関係 30%、バイト関係 30%
- 趣味：野球観戦、旅行、スノーボード、ネイル、買い物
- よく遊びに行くエリア：新宿
- 好きなファッションブランド：ZARA、Banana Republic、AMERICAN RAG CIE

Q7. メディア関係

- 新聞を読む？：毎日
- ラジオは聴く？：聴かない
- テレビは一日何時間？：2時間
- 好きなテレビ番組：海外ドラマ
- よく読む雑誌：無
- 使用SNS：LINE、Facebook、Instagram、Bitstrips

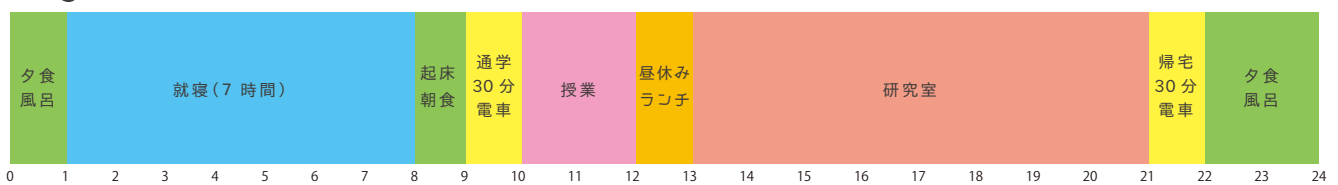
Q8. 僕たち・私たちの将来・未来の暮らし

- 将来就きたい職業：不動産
- 社会人に求めること：どんなことに対しても全力で楽しむこと。
- 結婚願望：無
- 将来に思い描く家族：夫婦+子3人
- 将来に思い描く住まい：海の見える一戸建て、ベランダには家庭菜園と大きな犬。休日には早朝から旦那とサーフィンに出かけるのが夢です！（笑）

Q9. その他

- 本屋は月に何回行く？：5回
- 大学入学後、国内旅行は：6回
- 大学入学後、海外旅行は：4回（フランス、スペイン、スイス、イタリア、台湾）
- 車は乗る？：ペーパードライバー
- ライブ・コンサート・舞台：0回/この1年
- スポーツ観戦：15回/この1年
- 選挙には行く？：毎回

Q10. ある一日のスケジュール



STUDENT02

♂・短大1年
茨城県出身
千葉県在住
ひとり暮らし
入試タイプ：一般入試
彼氏・彼女：未回答

Q1. あなたの部屋はどんな部屋？

私の家は大学の近くです。いつも先輩や友達遊びに来て、勉強や遊びにワイワイと過ごしています。時には、徹夜続きの中で、先輩や友達と寝食を共にして、料理を振る舞うこともあります。先輩たちは、たまに外食でごちそうをしてくれて、私の貧乏生活を救ってくれています。

Q2. 休日はどこへ行く？

休日は、大抵設計の課題に追われていることが多いのですが、なるべく建築の展覧会や美術館に足を運ぶように、東京に友人(特に女の子)を誘って行ったりすることを心がけています。また、趣味のマラソンをしたり、ストレス解消に登山に行くことが多いです。

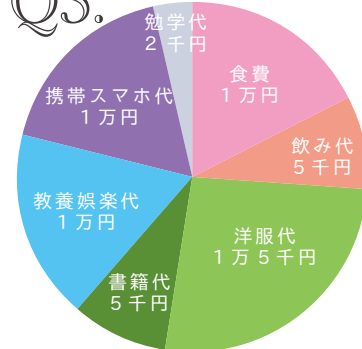
Q3. 僕・私の大学生活

- ・平均週に何日大学に来る? : 5日
- ・これまで一番楽しかった授業: ものづくりワークショップ
- ・1コマ授業が空いたとき、どこで過ごすことが多い? : 図書館でレポート/自宅に戻って家事(洗濯・掃除)
- ・ランチベスト3 : no.1「学食」no.2「サントリー(インドカレー)」no.3「自宅」

Q4. アルバイト・仕送り・奨学金

- ・アルバイト職種: レンタルショップ
- ・アルバイト週平均: 3回
- ・アルバイト収入月平均: 3万円
- ・これまでのアルバイト経験: 5つ
- ・建築系アルバイト経験の有無: 左官屋
- ・奨学金制度の利用: 有

Q5. 出費バランス



Q6. 交友・趣味・ファッション

- ・月に何回くらい飲みに行く? : 6回
- ・サークル: 天文サークル
- ・交友関係: 地元関係 30%、大学関係 50%、サークル関係 10%、バイト関係 10%
- ・趣味: 登山、マラソン、自動車
- ・よく遊びに行くエリア: 船橋、津田沼
- ・好きなファッションブランド: 先輩のセレクトショップで流行をチョイス

Q7. メディア関係

- ・新聞は読む? : 週1回
- ・ラジオは聴く? : 毎日
- ・テレビは一日何時間? : 3時間
- ・好きなテレビ番組: テラスハウス、やべっちF.C.
- ・よく読む雑誌: 新建築、住宅特集、住まいの設計、Street Jack
- ・使用SNS: LINE、Twitter、Facebook

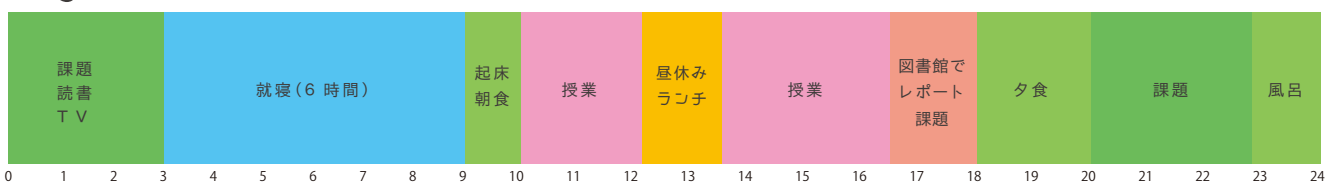
Q8. 僕たち・私たちの将来。未来の暮らし

- ・将来就きたい職業: 建築設計
- ・社会人に求めること: 信頼性、情熱、大人になりきらないこと
- ・結婚願望: 有
- ・将来に思い描く家族: 夫婦+子5人
- ・将来に思い描く住まい: 若い時は海外に住みたいです。結婚してからは、地元(茨城)で元気に子どもが育つあたたかい家に住みたいです。

Q9. その他

- ・本屋は月に何回行く? : 12回
- ・大学入学後、国内旅行は: 4回
- ・大学入学後、海外旅行は: 0回
- ・車は乗る? : 乗る
- ・ライブ・コンサート・舞台: 1回/この1年
- ・スポーツ観戦: 2回/この1年
- ・選挙には行く? : 毎回

Q10. ある一日のスケジュール



STUDENT03

♂・4年
 北海道出身
 東京都在住
 ひとり暮らし
 入試タイプ：指定校推薦
 彼氏・彼女：無

Q1. あなたの部屋はどんな部屋？

都内のワコルーム 5.5畳の部屋に住んでいます。とても狭いので、動線と収納を上手く整えて、短い動線で効率よく暮らせるように心がけています。一方で、自宅にゲーム機を置いていないことから、大学の知人からの受けは悪いです。

Q2. 休日はどこへ行く？

4年生後期は、卒業論文と卒業企画設計の授業に追われているため、休日は自宅や研究室を利用して作業を進めていることが多いです。また、気分転換として東京都立図書館や国立国会図書館で読書をすることや、建築関係の講演会に参加しています。基本的に、人と遊ぶことは平日が多く、休日は一人の時間を過ごしています。

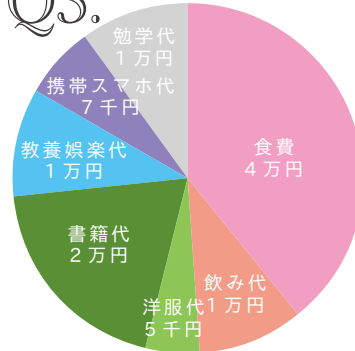
Q3. 僕・私の大学生活

- 平均週に何日大学に来る？：2日
- 一番楽しかった授業：卒業企画設計
- 1コマ授業が空いたとき、どこで過ごすことが多い？：カフェ
- ランチベスト3：no.1「NEW YORKER'S Cafe」no.2「ミスタードーナツ」no.3「5号館学食」

Q4. アルバイト・仕送り・奨学金

- アルバイト職種：していない
- アルバイト週平均：0回
- アルバイト収入月平均：0万円
- これまでのアルバイト経験：2つ
- 建築系アルバイト経験の有無：無(大学院進学後はする予定)
- 奨学金制度の利用：無

Q5. 出費バランス



Q6. 交友・趣味・ファッション

- 月に何回くらい飲みに行く？：1回
- サークル：無
- 交友関係：地元関係30%、大学関係70%
- 趣味：野球
- よく遊びに行くエリア：広尾
- 好きなファッションブランド：銀座山形屋

Q7. メディア関係

- 新聞を読む？：毎日
- ラジオは聴く？：聴かない
- テレビは一日何時間？：1時間
- 好きなテレビ番組：ガイアの夜明け、カンブリア宮殿
- よく読む雑誌：文藝春秋
- 使用 SNS: Facebook

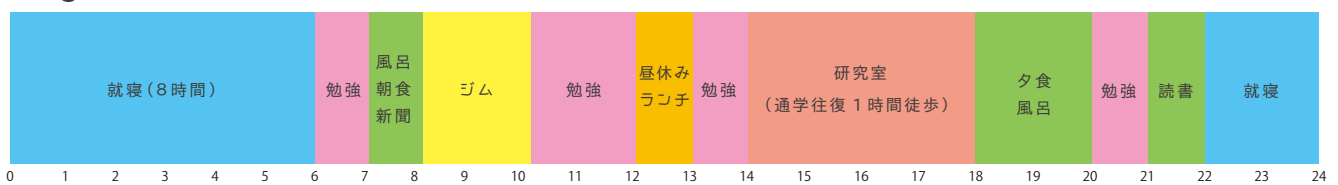
Q8. 僕たち・私たちの将来・未来の暮らし

- 将来就きたい職業：デベロッパー
- 働くことに求めること：社会的・公共的意義の大きい仕事
- 結婚願望：有
- 将来に思い描く家族：夫婦+子2人
- 将来に思い描く住まい：静かで治安の良い高級住宅街に、煉瓦造地下1階、地上3階の戸建住宅に住みたいです。

Q9. その他

- 本屋は月に何回行く？：6回
- 大学入学後、国内旅行は：7回
- 大学入学後、海外旅行は：0回(学部以前はハワイ、バリ島、シンガポール、中華人民共和国へ)
- 車は乗る？：来年取得予定
- ライブ・コンサート・舞台：1回/この1年
- スポーツ観戦：5回/この1年
- 選挙には行く？：毎回

Q10. ある一日のスケジュール



STUDENT04

♀・3年
 兵庫県出身
 神奈川県在住
 実家暮らし
 入試タイプ：一般入試
 彼氏・彼女：有

Q1. あなたの部屋はどんな部屋？

なるべく物を置かないようにしながらも、自分の好きなものやポストカードなどを飾ったりして自分が1番リラックスできるような空間にしています。机の後ろのちょっとしたスペースでは窓からの日差しが心地よく、ここで本を読んだりして休憩するのが好き。ちなみに部屋は、妹と半分にして使っています。

Q2. 休日はどこへ行く？

大学の友達と展示会などのイベントやご飯に行ったり、高校の友達とご飯に行くことが多いです。その他は共通の趣味の友達と一緒に観劇したり、たまにご飯に行きます。

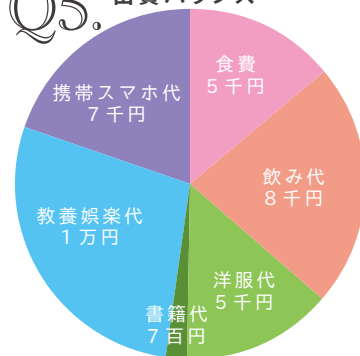
Q3. 僕・私の大学生活

平均週に何日大学に来る？：4日
 一番楽しかった授業：環境工学
 1コマ授業が空いたとき、どこで過ごすことが多い？：リーディングルーム
 ランチベスト3：no.1「7号館教室」no.2「1号館フリースペース」no.3「5号館」

Q4. アルバイト・仕送り・奨学金

- ・アルバイト職種：ブライダル
- ・アルバイト週平均：1回(不定期)
- ・アルバイト収入月平均：2万円
- ・これまでのアルバイト経験：2つ
- ・建築系アルバイト経験の有無：有
- ・奨学金制度の利用：無

Q5. 出費バランス



Q6. 交友・趣味・ファッション

- ・月に何回くらい飲みに行く？：4回
- ・サークル：入っているが活動はそんなにない
- ・交友関係：小学校関係10%、高校関係40%、大学関係40%、趣味関係10%
- ・趣味：観劇
- ・よく遊びに行くエリア：新宿
- ・好きなファッションブランド：NATURAL BEAUTY BASIC

Q7. メディア関係

- ・新聞は読む？：週1回
- ・ラジオは聴く？：聴かない
- ・テレビは一日何時間？：1時間
- ・好きなテレビ番組：テラスハウス
- ・よく読む雑誌：なし
- ・使用SNS：LINE、Twitter、Facebook

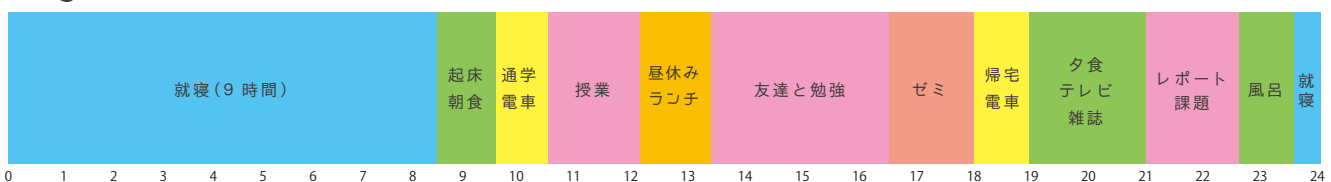
Q8. 僕たち・私たちの将来

- ・将来就きたい職業：無回答
- ・働くことに求めること：やりがいと、お客様との関わり
- ・結婚願望：有
- ・将来に思い描く家族：夫婦+子2人
- ・将来に思い描く住まい：都心からすこし離れた所で、周りにたくさんの緑があり子供がのびのび暮らせる戸建住宅(できたら自分で設計したもの)。

Q9. その他

- ・本屋は月に何回行く？：2回
- ・大学入学後、国内旅行は：4回
- ・大学入学後、海外旅行は：4回(ハワイ、タイ、ヨーロッパ研修旅行)
- ・車は乗る？：ペーパードライバー
- ・ライブ・コンサート・舞台：8回/この1年
- ・スポーツ観戦：0回/この1年
- ・選挙には行く？：毎回

Q10. ある一日のスケジュール



STUDENT05

♂・4年
 広島県出身
 東京都在住
 ひとり暮らし
 入試タイプ：センター入試
 彼氏・彼女：有

Q1. あなたの部屋はどんな部屋？

オンとオフを切り替えるために勉強机を設置しています。白い壁だと寂しいので、キース・ヘリングのステッカーをよく目に入る壁に貼っています。

Q2. 休日はどこへ行く？

休みの日は、一人でインターネットや読書をしていることが多いです。気になる展覧会が行われていると一人または友人と一緒に美術館に行くこともあります。

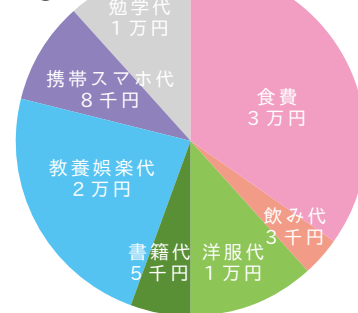
Q3. 僕・私の大学生活

・平均週に何日大学に来る？：2日
 ・一番楽しかった授業：建築設計Ⅲ
 ・1コマ授業が空いたとき、どこで過ごすことが多い？：無回答
 ・ランチベスト3：no.1「家」no.2「居酒屋のランチ（てけてけ）」no.3「エチオピア（カレー）」

Q4. アルバイト・仕送り・奨学金

・アルバイト職種：飲食（ホール）
 ・アルバイト週平均：1回
 ・アルバイト収入月平均：2万円
 ・これまでのアルバイト経験：4つ
 ・建築系アルバイト経験の有無：有（組織設計事務所、個人設計事務所）
 ・奨学金制度の利用：無

Q5. 出費バランス



Q6. 交友・趣味・ファッション

・月に何回くらい飲みに行く？：2回
 ・サークル：無
 ・交友関係：地元関係20%、大学関係80%
 ・趣味：お茶（紅茶）
 ・よく遊びに行くエリア：青山・表参道
 ・好きなファッションブランド：COMME des GARÇONS

Q7. メディア関係

・新聞は読む？：読まない
 ・ラジオは聴く？：週1回
 ・テレビは一日何時間？：30分
 ・好きなテレビ番組：特になし
 ・よく読む雑誌：特になし
 ・使用SNS：LINE、Twitter、Facebook、Sumally

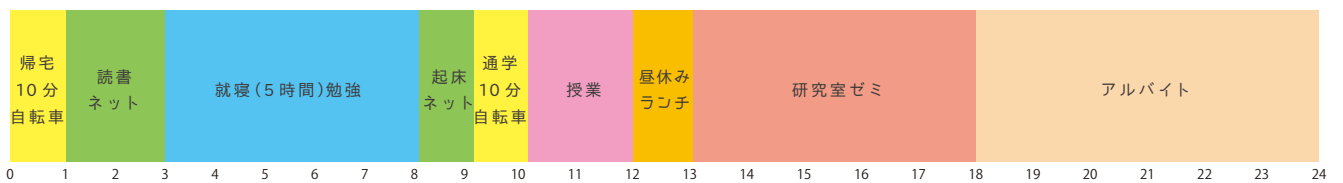
Q8. 僕たち・私たちの将来・未来の暮らし

・将来就きたい職業：建築家、政治家
 ・働くことに求めること：無回答
 ・結婚願望：有
 ・将来に思い描く家族：夫婦+子2人
 ・将来に思い描く住まい：湖の側の自分で設計した小さな小屋。

Q9. その他

・本屋は月に何回行く？：10回
 ・大学入学後、国内旅行は：4回
 ・大学入学後、海外旅行は：1回（フランス、スイス、ドイツ、オーストリア）
 ・車は乗る？：ペーパードライバー
 ・ライブ・コンサート・舞台：1回/この1年
 ・スポーツ観戦：0回/この1年
 ・選挙には行く？：たまに

Q10. ある一日のスケジュール



STUDENT06

♀・3年
 大阪府出身
 千葉県在住
 実家暮らし
 入試タイプ：一般入試
 彼氏・彼女：未回答

Q1. あなたの部屋はどんな部屋？

自分の部屋に特にこだわりはありません。中学・高校時代までは、たまに友人が遊びに来ることはありましたが、今ではほとんどなくなりました。自分自身も、自分の部屋にはほとんどいません。家にいるときは、リビングにいることが多いです。

Q2. 休日はどこへ行く？

休日は、時間があればショッピングに行きます。課題の提出間近だと学校で作業をすることが多いです。

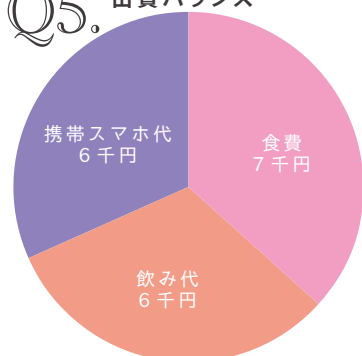
Q3. 僕・私の大学生活

・平均週に何日大学に来る？：4日
 ・一番楽しかった授業：設計製図
 ・1コマ授業が空いたとき、どこで過ごすことが多い？：製図室
 ・ランチベスト3：no.1「製図室」no.2「製図室」no.3「住友」

Q4. アルバイト・仕送り・奨学金

・アルバイト職種：サービス業・設計事務所
 ・アルバイト週平均：2、3回
 ・アルバイト収入月平均：4万円
 ・これまでのアルバイト経験：5つ
 ・建築系アルバイト経験の有無：有
 ・奨学金制度の利用：無

Q5. 出費バランス



Q6. 交友・趣味・ファッション

・月に何回くらい飲みに行く？：1、2回
 ・サークル：未回答
 ・交友関係：地元関係 9%、大学関係 40%、高校関係 50%、バイト関係 1%
 ・趣味：スクラップブック
 ・よく遊びに行くエリア：都内
 ・好きなファッションブランド：特になし

Q7. メディア関係

・新聞は読む？：読まない
 ・ラジオは聴く？：聴かない
 ・テレビは一日何時間？：3時間
 ・好きなテレビ番組：ワンピース、にじいろジーン、ドラマ
 ・よく読む雑誌：新建築
 ・使用 SNS：LINE、Twitter、Facebook、Skype

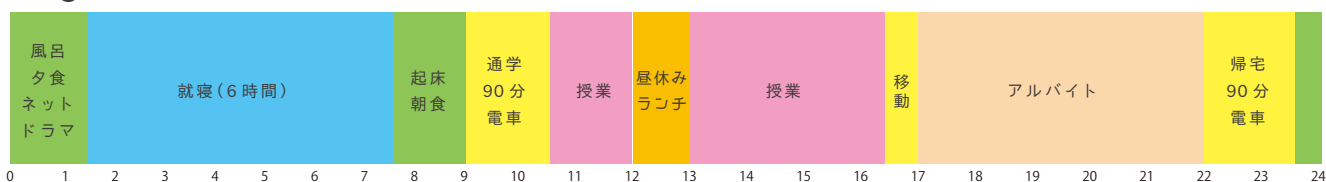
Q8. 僕たち・私たちの将来

・将来就きたい職業：設計事務所
 ・働くことに求めること：人脈、コミュニケーション能力
 ・結婚願望：有
 ・将来に思い描く家族：夫婦+子2人
 ・将来に思い描く住まい：古民家のような梁や柱のある木造住宅。吹き抜けや庭がある家。都内→郊外。

Q9. その他

・本屋は月に何回行く？：1、2回
 ・大学入学後、国内旅行は：10回
 ・大学入学後、海外旅行は：3回（韓国、ヨーロッパ他）
 ・車は乗る？：乗る
 ・ライブ・コンサート・舞台：0回/この1年
 ・スポーツ観戦：0回/この1年
 ・選挙には行く？：毎回

Q10. ある一日のスケジュール



STUDENT07

♀・4年
山形県出身
東京都在住
ひとり暮らし
入試タイプ：一般入試
彼氏・彼女：有

Q1. あなたの部屋はどんな部屋？

学部3年以降は、家で過ごす時間が増えたので、自分の好きなものに囲まれてのんびりできる部屋にしています。写真を撮ったのは12月上旬だったので、クリスマスの飾りを壁や棚やコタツのテーブルの上に飾ってあります。

Q2. 休日はどこへ行く？

土曜日はサークルの友達と渋谷や下北沢でバンドの練習をしたり、大学のキャンパスやライブハウスでライブに出たりすることが多いです。それらが終わったらみんなで飲みに行ってわいわい騒ぎます！次の日の朝は一週間の疲れを癒すべくゆっくりたっぷり寝ます(笑)。起きたら買い物に行ったり美味しい夜ご飯を食べに出かけることが多いです。

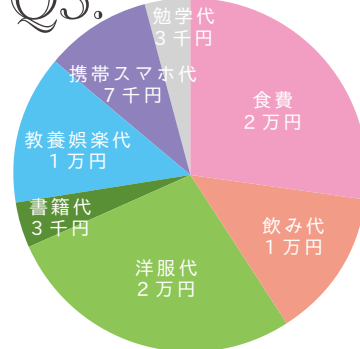
Q3. 僕・私の大学生活

- ・平均週に何日大学に来る？：4、5日
- ・一番楽しかった授業：環境工学
- ・1コマ授業が空いたとき、どこで過ごすことが多い？：図書館やカフェなど。散歩をすることもよくありました。
- ・ランチベスト3：no.1「お弁当を買ってきて教室」no.2「学食」no.3「外へランチ」
- ・最近のヒットは先生に連れて行ってもらった王府酒家(中華) コスパ◎!

Q4. アルバイト・仕送り・奨学金

- ・アルバイト職種：飲食業(スターバックスコーヒー)
- ・アルバイト週平均：2、3回/週
- ・アルバイト収入月平均：5~7万円
- ・これまでのアルバイト経験：2つ(どちらもカフェ)
- ・建築系アルバイト経験の有無：無
- ・奨学金制度の利用：無

Q5. 出費バランス



Q6. 交友・趣味・ファッション

- ・月に何回くらい飲みに行く？：5、6回
- ・サークル：インカレのバンドサークル
- ・交友関係：地元関係30%、大学関係20%、サークル関係30%、バイト関係20%
- ・趣味：音楽鑑賞、楽器演奏(サクソ)
- ・よく遊びに行くエリア：新宿
- ・好きなファッションブランド：MHL、JOURNAL STANDARD、GAP

Q7. メディア関係

- ・新聞は読む？：読まない
- ・ラジオは聴く？：聴かない
- ・テレビは一日何時間？：1、2時間
- ・好きなテレビ番組：ZIP!(毎朝 MOCO'S キッチンを見る)
- ・よく読む雑誌：ar、Tokyo graffiti
- ・使用SNS：LINE、Twitter、Facebook

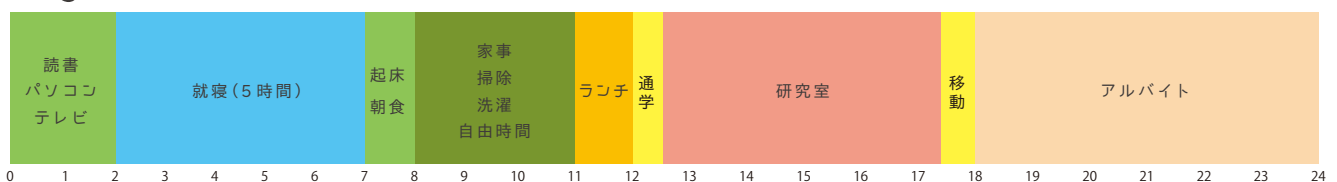
Q8. 僕たち・私たちの将来・未来の暮らし

- ・将来就きたい職業：光や色と建築とをつなぐことができるような仕事
- ・働くことに求めること：やりがい、達成感、クライアントの顔が見えること
- ・結婚願望：有
- ・将来に思い描く家族：にぎやかで楽しい家庭
- ・将来に思い描く住まい：年をとったら静かな田舎に小さな一軒家。旦那さんと趣味を楽しみながら一緒にのんびり暮らしたい

Q9. その他

- ・本屋は月に何回行く？：4、5回
- ・大学入学後、国内旅行は：10回
- ・大学入学後、海外旅行は：1回(オランダ、ベルギー、イギリス)
- ・車は乗る？：無免許
- ・ライブ・コンサート・舞台：7回/この1年
- ・スポーツ観戦：1回/この1年
- ・選挙には行く？：たまに

Q10. ある一日のスケジュール



STUDENT08

♀・2年
 千葉県出身
 千葉県在住
 実家暮らし
 入試タイプ：一般入試
 彼氏・彼女：無

Q1. あなたの部屋はどんな部屋？

私の部屋は、自分のものがすべて入っています。ピアノや棚、ドラフターなどに場所を取られています。大学に入学してから、ドラフターを知り合いにもらいました。ドラフターが部屋に来たことで、一気に部屋に建築学生の雰囲気が出ました。

Q2. 休日はどこへ行く？

休日は、ライブやバイト、ぶらり旅に出ることもあります。ライブは、気が抜ける場所になるため、生活の中の一区切りのような感じになってます。バイトはライブに行くためにやっている感じです。あとは、気の向くままに、散歩や買い物などをして過ごします。

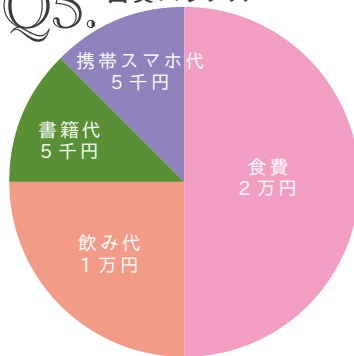
Q3. 僕・私の大学生活

・平均週に何日大学に来る？：5日
 ・一番楽しかった授業：建築設計II
 ・1コマ授業が空いたとき、どこで過ごすことが多い？：NEW YORKER'S Cafe
 ・ランチベスト3：no.1「セブンイレブン」no.2「ワテラス近くの弁当屋さん」no.3「東京チカラめし」

Q4. アルバイト・仕送り・奨学金

- ・アルバイト職種：塾講師、模型制作、携帯販売
- ・アルバイト週平均：3回
- ・アルバイト収入月平均：5万円
- ・これまでのアルバイト経験：4つ
- ・建築系アルバイト経験の有無：有
- ・奨学金制度の利用：有

Q5. 出費バランス



Q6. 交友・趣味・ファッション

- ・月に何回くらい飲みに行く？：無
- ・サークル：スキューバダイビング
- ・交友関係：地元関係10%、大学関係80%、バイト関係10%
- ・趣味：ジャズを聞くこと、コンサートに行くこと
- ・よく遊びに行くエリア：未回答
- ・好きなファッションブランド：ANNA SUI

Q7. メディア関係

- ・新聞は読む？：週1回
- ・ラジオは聴く？：週3回
- ・テレビは一日何時間？：2時間
- ・好きなテレビ番組：朝ドラ、あせい子
- ・よく読む雑誌：特になし
- ・使用SNS：LINE、Twitter、Facebook

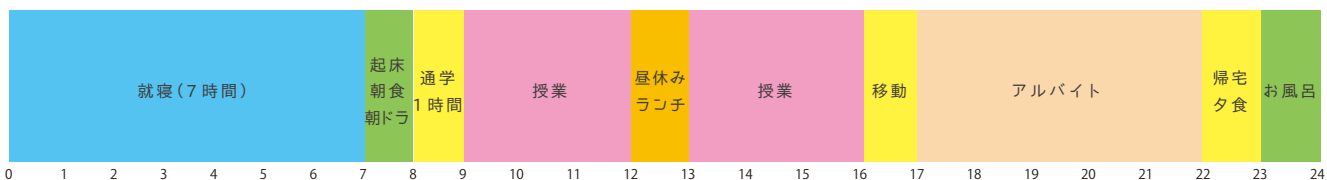
Q8. 僕たち・私たちの将来。未来の暮らし

- ・将来就きたい職業：建築士
- ・働くことに求めること：息抜きの仕方
- ・結婚願望：無
- ・将来に思い描く家族：夫婦+子2人
- ・将来に思い描く住まい：下田の日本建築の家。

Q9. その他

- ・本屋は月に何回行く？：10回
- ・大学入学後、国内旅行は：5回
- ・大学入学後、海外旅行は：2回（フランス、イタリア、ポルトガル、スペイン、スイス、ミャンマー）
- ・車は乗る？：乗る
- ・ライブ・コンサート・舞台：30回/この1年
- ・スポーツ観戦：15回/この1年

Q10. ある一日のスケジュール



News & Topics

第1次審査を経て、第2次公開審査で最優秀案に選ばれたのは、**安西彩香さん・川田実可子さん・小関真子さん**（3年）による「明日の市役所～未来を育てるプラットフォーム～」という提案である。次いで、**中島奈津美さん**（M1／本杉研）の「雁木が結ぶ、多世代よったかりの場 - 長岡シティホール -」、**落合恵子さん・中辻千尋さん・奈良橋佳洋くん**（3年）の「長岡市役所説明書」の2案が優秀賞として選出された。これらの提案はどれも内部空間のみならず、外部空間が丁寧に設計されており、地域に開かれた新しい市役所のあり方を予感させる点が評価された。

毎年著名な建築家を審査員に招いて開催している本コンペティションだが、今回の応募総数は各学部・学科合せて33案であった。これは日本大学に在籍している学生数からみればまだまだ十分な数だとは言えないだろう。第一線で活躍する建築家が出題する課題に取り組むことは、建築や都市に対する理解を深める上で、大変有意義なものであることは疑う余地がない。学生諸君には、各自の腕を磨く場として、本コンペを積極的に活用してもらいたいと思う。

敬



公開審査後は、1号館2階のカフェテリアで受賞式と懇親会が行われ、隈研吾さんと学生たちの交流は続いた。



1：最優秀賞の「明日の市役所～未来を育てるプラットフォーム～」(安西彩香・川田実可子・小関真子)。建物の外周に配された3つの円弧状の大きな半外部空間が特徴的な提案。

2：優秀賞の「雁木が結ぶ、多世代よったかりの場 - 長岡シティホール -」(中島奈津美)。豪雪地帯特有の雁木という建築的エレメントを活用し、市民の日常生活の延長に市役所を位置づけようとした提案。

3：優秀賞の「長岡市役所説明書」(落合恵子・中辻千尋・奈良橋佳洋)。小さなヴォリュームを多数点在させ、多様なアクティビティを敷地全体に浸透させているのが特徴的な提案。

4：佳作「SCRAP CITY HALL- 明日の街の断片を描く市役所 -」(沢田拓郎：M1／今村研)。


5：佳作「ユニバーシティホール長岡 - 若者が地方を元気にする -」(落合俊太：M1／佐藤光彦研)。

2 | 「第60回日本大学全国高等学校・建築設計競技」開催 兵庫県立神戸工業高等学校・森崎くんが最優秀賞を受賞！

text = 中田弾 助手

今年度は「つながる家」をテーマに60回目となる「日本大学全国高等学校・建築設計競技」が実施された。北は北海道から南は熊本まで、54校201点もの応募があった。9月10日(火)に第1次審査会、11月9日(土)に第2次審査会と2度の審査を経て、最優秀賞1点、優秀賞5点、高専賞1点、佳作5点、奨励賞11点が入賞作品として選ばれた。今年度からは工業高等学校や普通高等学校に通う学生以外にも、工業高等専門学校の3年生まで応募資格が広がられた。第1次審査会では、全応募作品を対象として審査員による投票が行われ、得票した33

作品の中から入賞23作品が選ばれた。そして、第2次審査会では、第1次審査会で優秀賞に選出された6作品の応募者によるプレゼンテーションが行われ、最優秀賞を決定した。その後に開催された懇親会では、発表者である高校生や同行した指導教員、審査員による交流が行われ、数十年ぶりの再会もあり、会場を盛り上げた。

今年度も高校生からさまざまな提案があり、将来を楽しみにさせるものが多くあった。今後もこの事業を継続し、建築に興味ある生徒の裾野を広げることで、建築家を目指す若者たちのきっかけになることを期待したい。 



1：第2次審査会プレゼンテーションの様子。
2：最優秀賞を受賞した兵庫県立神戸工業高等学校の森崎くん。

3 | 学生とOB・OGとの交流会 建築学科主催「OBと学生との懇談会2013」開催

text = 中田善久 教授

11月13日(水)に1号館CSTホールにおいて建築学科が主催した「OBと学生との懇談会2013」が開催されました。これは、理工学部校友会建築部会ならびに桜門建築会の後援を受け、新卒生対象となる建築学科の3年生や大学院1年生とOBとの懇談の場として企画されたもの。ここでは、在学生とOB・OGである企業の方々が接することを趣旨としており、OB・OGの方々との対話を通じて、社会の常識・厳しさや就職活動などに対する在学生の意識向上を期待しています。

在学生の参加者は学部3年生・大学院1年生など合わせて283名で、参加企業数

は合計56社、OBを含めた企業の参加者は141名に及びました。(表1、表2)。OB・OGの方々は、まだまだ社会を知らない後輩たちに懇切丁寧に仕事の内容や苦労したことなどを説明していました。また、やる気のある在学生からは質問も出ており、OB・OGはそれに嬉しげに回答されていました。


来年度は、就職解禁の時期がこれまでと異なるため「OBと学生との懇談会」開催時期は未定ですが、参加する現2年生は、開催までに企業研究を行い、有意義な時間となることを期待しています。 



表1：参加企業56社(五十音順、敬称略)

INA 新建築研究所、青木あすなろ建設、浅沼組、旭化成ホームズ、梓設計、安藤・間、池田建設、石本建築事務所、NTTファシリティーズ、大林組、大本組、鹿島建設、久米設計、構造計画研究所、構造ソフト、鴻池組、五洋建設、斎久工業、三建設備工業、ジェイアール東日本建築設計事務所、清水建設、新日鉄興和不動産、新日鉄住金エンジニアリング、スターツグループ、西武建設、積水ハウス、船場、大成建設、ダイタン、大東建託、大和ハウス工業、高砂熱学工業、高松建設、竹中工務店、丹青社、鉄建建設、東亜建設工業、東急建設、東洋熱工業、戸田建設、西松建設、日建設計、日本設計、及村工務社、野村不動産、野村ビルマネジメント、長谷工コーポレーション、フジタ、ボラスグループ、松田平田設計、三井デザインテック、三井住友建設、安井建築設計事務所、山下設計、LIXILトーヨーサッシ商事、類設計室
--

表2：参加学生について

建築学科	参加学生数		
	学部3年	学部4年	大学院1年
構造系	57	2	27
環境系	43	1	4
設計系	29	0	20
計画系	46	0	6
企画系	43	1	0
系なし	2	2	-
合計	220	6	57
	283名		

4 | 毎月開催、在生も卒業生も、誰でも参加できる 新しいレクチャーシリーズ「オウケンカフェ」レポート

理工建築にとどまらず、日大建築系すべての卒業生による会「日大桜門建築会」、略して「桜建会」。その桜建会が企画してゲストを招くレクチャーシリーズ「オウケンカフェ」が昨年7月から月に一度のペースではじまっている。卒業生はもちろんのこと、現役学生たち、また外部の誰もが参加可能だ。今回は、10月から12月に行われた3つのレクチャーの学生レポートを紹介。次回は1月29日（水）、ゲストに竹中司+岡部文（建築家/アンズスタジオ）を迎えて行われる。それぞれの世界の最前線で活躍する人の話から、学ぶことは多いはず。大学の授業だけでは伝えることのできない、さまざまな世界の話聞いて、一緒に対話してみませんか？

みなさんも、ぜひ参加を！

vol.4 / 2013.10.30 WED.

ゲスト：小川博央

(建築家/小川博央都市建築設計事務所)

| 丹下幸太 (M2/佐藤光彦研究室)

上の世代を超えなくてはならない。建築に限らず必然として求められる命題であり、傍聴していた私たちにとっても突きつけられた大きな問題である。「若手建築家」という言葉はいかにして定義されるのか。ソレは名前だけのものではなく、意思の込められた言葉であり、戦いを挑み続けることの必要性を強く感じた講義であった。

ファサード論議（質疑において若手建築家のつくる建築は外観が弱いのではないかという意見に対して起こった議論）を通じた「建築のアイデンティティはなんなのか」という問いに対し、小川さんは「構成」「マ

テリアル」といった確かな言語で答を返していた。それは学生時代のコンペの紹介から始まった講義の筋を通すものであって（要は自身のメモの中に多く残っている言葉）、オリジナリティへの追求・ヴィジョンへの強さを感じた。限りある時間ではあったが、その先の話をもう少し聞きたかったというのが学生としての本音であるが、近い未来その全貌を体験することができるのもそんなに遠いことではないのであろう。これからも目の離せない、間違いなく「今」知っておくべき建築家の一人である。そして私達はソレを批評し自分自身が戦いを挑まなくてはならなくなる時代もそんなに遠くはない、ということも自覚しなくてはならないのである。

■今後の予定

1月29日（水）vol.07 / 竹中司+岡部文（建築家/アンズスタジオ）

3月5日（水）vol.08 / 末光弘和（建築家/SUEP.）

3月26日（水）vol.09 / 星野諭（プレイワーカー・地域コーディネーター/コードモ・ワカモノまちing）

* 毎回19時スタート。場所は、駿河台キャンパス5号館5階スライド室1。参加費は、桜門建築会会員・日本大学学生は無料、それ以外は1,000円（当日に入会すれば無料）。会場ではキャッシュオンにてドリンクを販売します。



vol.5 / 2013.11.27 WED.

ゲスト：今村雅樹（日本大学理工学部教授）+ 小泉雅生（建築家/首都大学東京教授）

+ 高橋晶子（建築家/武蔵野美術大学教授）

| 今野政憲 (4年/建築史・建築論研究室)

『パブリック空間の本』を主要題材に挙げ、執筆者御三方の学生時代の活動から、今日に至るまでの過程をレクチャーしていただいた。

今回はどちらかと言えば討論形式で、物事は追わず、むしろ建築家の軌跡として、いわゆる“ケンチくん”としての学生の過ごし方・生い立ちを魅せられた会であった。生い立ちの中でも触れてきた本は、その人の人間性や、結果的に自身の中軸になるもので、論文やその後の設計活動にも通じている。今回の先生方の設計活動もまた、ケ

ンチくん時代の経験が〈パブリック空間〉の興味を誘発させられたものとも言えるのではないだろうか？

また、ケンチくんにはビギナーズラックがあるらしい。初心者は勘を頼りに設計してみると、案外上手く納まっていたり、案外物事がうまく進んだり。無論、ラックはあくまで本人の経験量が左右し、無駄と無意味の蓄積がそれを引き寄せているのだろう。「リアリティ」を求め、地域との関係性を解いてきた御三方の設計活動には、今後も注目すべきであろう。ケンチくんはこの本に触れることで、自分の位置を再確認することができるのではないだろうか。

今回のオウケンカフェは人で溢れかえっていたが、気楽に入れて、活動中の人々の話は新鮮味の溢れるものである。気分転換に足を運んでみては？



4 | 毎月開催、在学生も卒業生も、誰でも参加できる 新しいレクチャーシリーズ「オウケンカフェ」レポート

理工建築にとどまらず、日大建築系すべての卒業生による会「日大桜門建築会」、略して「桜建会」。その桜建会が企画してゲストを招くレクチャーシリーズ「オウケンカフェ」が昨年7月から月に一度のペースではじまっている。卒業生はもちろんのこと、現役学生たち、また外部の誰もが参加可能だ。今回は、10月から12月に行われた3つのレクチャーの学生レポートを紹介。次回は1月29日（水）、ゲストに竹中司+岡部文（建築家/アンズスタジオ）を迎えて行われる。それぞれの世界の最前線で活躍する人の話から、学ぶことは多いはず。大学の授業だけでは伝えることのできない、さまざまな世界の話聞いて、一緒に対話してみませんか？

みなさんも、ぜひ参加を！

vol.4 / 2013.10.30 WED.

ゲスト：小川博央

(建築家/小川博央都市建築設計事務所)

| 丹下幸太 (M2/佐藤光彦研究室)

上の世代を超えなくてはならない。建築に限らず必然として求められる命題であり、傍聴していた私たちにとっても突きつけられた大きな問題である。「若手建築家」という言葉はいかにして定義されるのか。ソレは名前だけのものではなく、意思の込められた言葉であり、戦いを挑み続けることの必要性を強く感じた講義であった。

ファサード論議（質疑において若手建築家のつくる建築は外観が弱いのではないかという意見に対して起こった議論）を通じた「建築のアイデンティティはなんなのか」という問いに対し、小川さんは「構成」「マ

テリアル」といった確かな言語で答を返していた。それは学生時代のコンペの紹介から始まった講義の筋を通すものであって（要は自身のメモの中に多く残っている言葉）、オリジナリティへの追求・ヴィジョンへの強さを感じた。限りある時間ではあったが、その先の話をもう少し聞きたかったというのが学生としての本音であるが、近い未来その全貌を体験することができるのもそんなに遠いことではないのであろう。これからも目の離せない、間違いなく「今」知っておくべき建築家の一人である。そして私達はソレを批評し自分自身が戦いを挑まなくてはならなくなる時代もそんなに遠くはない、ということも自覚しなくてはならないのである。

■今後の予定

1月29日（水）vol.07 / 竹中司+岡部文（建築家/アンズスタジオ）

3月5日（水）vol.08 / 末光弘和（建築家/SUEP.）

3月26日（水）vol.09 / 星野諭（プレイワーカー・地域コーディネーター/コードモ・ワカモノまちing）

* 毎回19時スタート。場所は、駿河台キャンパス5号館5階スライド室1。参加費は、桜門建築会会員・日本大学学生は無料、それ以外は1,000円（当日に入会すれば無料）。会場ではキャッシュオンにてドリンクを販売します。



vol.5 / 2013.11.27 WED.

ゲスト：今村雅樹（日本大学理工学部教授）+ 小泉雅生（建築家/首都大学東京教授）

+ 高橋晶子（建築家/武蔵野美術大学教授）

| 今野政憲 (4年/建築史・建築論研究室)

『パブリック空間の本』を主要題材に挙げ、執筆者御三方の学生時代の活動から、今日に至るまでの過程をレクチャーしていただいた。

今回はどちらかと言えば討論形式で、物事は追わず、むしろ建築家の軌跡として、いわゆる“ケンチくん”としての学生の過ごし方・生い立ちを魅せられた会であった。生い立ちの中でも触れてきた本は、その人の人間性や、結果的に自身の中軸になるもので、論文やその後の設計活動にも通じている。今回の先生方の設計活動もまた、ケ

ンチくん時代の経験が〈パブリック空間〉の興味を誘発させられたものとも言えるのではないだろうか？

また、ケンチくんにはビギナーズラックがあるらしい。初心者は勘を頼りに設計してみると、案外上手く納まっていたり、案外物事がうまく進んだり。無論、ラックはあくまで本人の経験量が左右し、無駄と無意味の蓄積がそれを引き寄せているのだろう。「リアリティ」を求め、地域との関係性を解いてきた御三方の設計活動には、今後も注目すべきであろう。ケンチくんはこの本に触れることで、自分の位置を再確認することができるのではないだろうか。

今回のオウケンカフェは人で溢れかえっていたが、気楽に入れて、活動中の人々の話は新鮮味の溢れるものである。気分転換に足を運んでみては？



今年度も夏季休暇中に海外研修旅行が2コースに分かれて行われました。総勢60名の学生が参加しました。今回は、Aコース、Bコースそれぞれの参加学生によるレポートをお届けします。

Architectural Study Tour



22日間、ヨーロッパ5カ国の近現代建築を巡る旅 イタリア～スイス～フランス～スペイン～ポルトガル～フランス



2013/8/27「ユニテ・ダビタシオン」(ル・コルビュジエ / フランス・マルセイユ)の屋上で住人が体を動かす風景。

ル・コルビュジエ建築に宿泊する夢のような時間

Text = 宮島由香 (3年)

ヨーロッパ海外研修は、建築だけを見て周る3週間の弾丸ツアーでした。私にとってこの3週間の体験は一生に一度の貴重な時間であったと、今振り返って感じます。ヨーロッパでは隣地境界線というものがないため、建物同士がくっついて建っていることや、地面がアスファルトではなく石畳であることなど。日本とは異なった風景の町並みを歩いているだけでも新鮮でした。

さらに、毎日見学する名建築の数々は教科書や授業で見たことあるものから、この海外研修で初めて知った建築までさまざまでしたが、それらを写真という二次元で眺めるのではなく、実際に行って自分で空間を体験できたことが何よりも貴重な体験だったと思います。日本ではなじみのない教会建築の数々や、巨匠ル・コルビュジエの作品など多くの作品を実際に自分の目で見て感じることもできました。ル・トロネ修道院の回廊の光の差し込み方や、ロンシャンの教会のステンドグラスから光が差し込む繊細な空間、さらにサグラ

ダファミリアの彫刻作品に飲み込まれてしまうような迫力のある芸術的建築空間はすばらしかったです。

その中でも私が一番心に残っていることは、ユニテ・ダビタシオンに宿泊したことです。建築の巨匠ル・コルビュジエの作品で一晩過ごせたことは何よりも貴重な体験でした。屋上や部屋の家具、中廊下などには至る所にル・コルビュジエのデザインが見受けられました。今回のように実際にユニテ・ダビタシオンに宿泊するという体験はもう二度とできないでしょう。とても貴重な体験だったと思っています。

横河先生に建築の解説を聞かせて頂いたことや、他にも自由行動の時間に美術館巡りをしたこと。また、各国の料理を堪能したことや、外国人と片言の英語でコミュニケーションをとったことなど、建築に関するだけでなく、さまざまな貴重な経験や勉強ができた3週間でした。あの時間を私は一生忘れません。ありがとうございました。



上：2013/8/28「ル・トロネ修道院」(フランス)。中：2013/8/28「モンペリエシティホール」(ジャン・ヌーベル / フランス・モンペリエ) 外観。下：2013/8/29「サグラダファミリア」(ガウディ / スペイン・バルセロナ)にて外尾悦郎さんにお話をいただいた。

引率教員：横河健教授 西脇粹助手

3年／磯山裕多、小灘杜夫、伊庭大貴、村田皓平、倉掛太一、鈴木衛、小松零武、敦賀谷俊、齊藤佑樹、榊原大輔、酒井敏永、三宮朋也、清水亮輔、白木大一、丸山政貴、田中和幸、久佳江、横瀬菜美、宮島由香、山口笑夏、西島修悟、村田恭輔、古川淳一、波多腰涉、儘田祐樹、奈良橋佳洋、呉東文、森田秀一、2年／青木真理恵、大川碧望、大野史織、小林拓生、古本証輝、佐久間諒、正田竜平、関口直希、添田魁人、藤川裕介、洞口由宇



2013/8/29「サグラダファミリア」(ガウディ / スペイン・バルセロナ) 前にて、サグラダファミリアの主任彫刻家の外尾悦郎さんと共に記念写真を撮る。

建築を見るべきように見ること

Text = 清水亮輔 (3年)

見たいように見ることのできる時代に、私たちは生きている。情報のデジタル化によって、興味の対象物をいつでも、どこでも、誰でも簡単に見る、又は知ることができる時代。そのため、授業以外にも、インターネットやテレビなどといったメディアから、さまざまな建築を見ることができる。ただ、それは「見たいように見ている」とは言えないだろうか。実際にその場所に足を運んで、建築を見に行くことで、建築を「見るべきように見る」ための、思いがけない出会いや、驚き、感動といった「きっかけ」がある。

独特なその見た目から、賛否両論あったポンピドーセンターでは、緩やかに傾斜した前広場に人々が座ったり寝そべったり、その視線の先で大道芸人がパフォーマンスをしていた。ル・コルビュジエが設計した、ユニテ・ダピタシオンに宿泊するという経験もした。夕方には、幼稚園のあるその屋上部で、ユニテに住む住人がみんなで体を動かしている輪の中に、私も入った。

机の上の缶ジュースを、見たいように見ること、いくらでもできる。しかし、触れてみないとその冷たさに気付けない。さらには、手を伸ばさないと触れることすらできない。「点」としてある対象物ばかり見ているのではなく、実際にそこに行くまでの道のりや、そこで過ごす時間といった、「線」としての体験が、偶発的な出会いをもたらしてくれる。それは、瞬時に目的を果たしてくれるデジタル的な情報では成し得ない。実際に行くことで、自分の足で歩くことで、出会うのではないだろうか。そしてそれが、建築を「見るべきように見る」ためのきっかけになる。 **■**



上：2013/8/31「グッゲンハイム美術館」(フランク・O・ゲーリー / スペイン・ビルバオ) 外観。
中：2013/9/6「ルーブル・ランス」(SANAA / フランス・ランス) 内観。下：2013/9/8「ポンピドーセンター」(レンツ・ピアノ+リチャード・ロジャース / フランス・パリ) 前の広場。(写真は全て、提供 = 清水亮輔)

Architectural Study Tour

B

23日間、ヨーロッパ4カ国を巡る旅

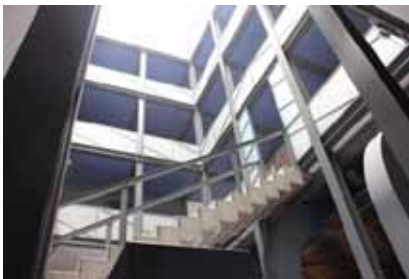
ポルトガル～スペイン～モロッコ～フランス

1日目 2013-08-12 ポルトガル・リスボン

海 外研修Bコース1日目!初日はポルトガルのリスボン。まずは、ベレンの塔。海辺に建っていて昔は下が水廊、上がお城として利用されていたものらしい。とりあえず、みんなでけんちく体操した! (笑)次に、発見のモニュメント。これもけんちく体操しやすく、みんなでひたすらしていた記憶が (笑)。



ジェロニモス修道院はごてごてした装飾で、ヤシの木などをモチーフとしたものが多かった。ポルトガル建築協会支部 (下写真) は大衆浴場をリノベーションした建物で、日本にはないような納まりがみられる。隠れた階段を上ると屋上に出ることができて、屋根の上に乗らせてもらった。



リスボンの市街地までの道のりでバスの中から街並みを見ていくと、外壁の装飾にタイルが多く使われているのが印象的だった。これはイスラムの文化の影響を受けているらしい。サンタジュスタのリフト (右上写真) は、丘の多い土地であるリスボンで移動手段として使われている。上に登るとリスボンの街が一望できて、良い眺めだった。このリフトはボルトを使わずにリベットで接合されている。社会コミュニケーション学校は1993年に建てられたとは思えないほど現代的。巨大な建物なのに軽い、ピ

ロティや開口の明け方によって薄さや軽さを演出している。ピロティは柱だけでなく壁でも支えられているが、入り口のほうへ向かう道からは柱に見えるようになっていた。(3年/小関真子)



5日目 2013-08-16 スペイン・アルヘシラス

ス ペインに慣れてきた僕たちBコースはグラナダを經由しアルヘシラスにあるアルハンブラ宮殿に赴いた。アルハンブラ宮殿は、日本人にも有名でスペインの代表的な観光地である。イスラム建築の最高傑作ともいわれ、スペイン最後のイスラム王朝ナスル王朝の王宮がありイスラム文明の繁栄、イスラム文化の結晶といえる建築ではないだろうか。



宮殿の中心に位置するコマレス宮の中庭 (上写真) は壁と回廊状のファサードに囲まれ、中庭を比率 (プロポーション) で考えて、一つの装飾としているのではないかと思った。このプロポーションが人々を魅了するのもかもしれない。また乾燥地帯であるこの地域にとって水というものは特別なものであり、その水は権力の象徴ではないか。



アルハンブラ宮殿で注目すべきは、やはりこの二姉妹の間の鍾乳石の彫刻装飾 (上写真) である。細かく精巧な彫刻は、美しく、明り採りから射し込む光は「天井の写し絵」という構想を具現化しているようである。またイスラム文化は、偶像崇拝を禁止しているため幾何学模様や文字装飾が随所にみることができる。やはりこのアルハンブラの内部装飾がイスラム建築の最高傑作といわれる所以ではないだろうか。(3年/今吉洲人)

6日目 2013-08-17 モロッコ

ス ペインのアルヘシラス港から今回唯一のアフリカ大陸、モロッコフェリーで移動しました。着いた先のセウタはスペインの飛び地であり、まだ文化がすごく違うという感じはしませんでした。タンジェのメディナ (旧市街地) に入ると途端にイスラム教文化で異文化だと強く感じました。



市場はなんとなくアラジンの世界のように感じました。メディナ内は迷宮のようでガイドがいたからこそ同じような位置から出ることができましたが、一回では道を覚えるのは大変だろうなと思いました。フェリーで1時間というそこまで遠くない移動ですが、ジブラルタル海峡をこえて大陸が変わり、宗教が変わるとここまで変わるのかと実感しました。(3年/小林澤奈)

10日目 2013-08-16 スペイン・ビルバオ

グッゲンハイム美術館。街の川沿いに建てられたこの美術館は、大きく分けて二つのファサードを持っていると説明を受けたが、どの面から見てもまるで本物の船のように正確に計算されつくしたデザインのような、安定したバランス感が感じられた。多くの不均一な曲線を用いつつも、それらは場所によって役割を変え、内外部の両面からそれぞれ意味のある空間が造り出されている。私には、この矛盾のない象徴建築が今まで見たどの美術館よりもすばらしく見え、感激した。(3年/田中僚)



11日目 2013-08-17 スペイン・バルセロナ

海外研修も折り返し点に差しかかったこの日、僕たちはスペインの主要都市のひとつ、バルセロナにいた。昨日の走行時間5時間超という長いバスの旅を終え、疲れもだいぶたまってきてはいたが、バルセロナという町に期待を寄せながらバスを降りた。



まずは、あの有名な建築、サグラダファミリア(上写真)に着いた。サグラダファミリアは、放射線状のアーチによって作られている。このアーチは、ガウディが設計図を描く時、鎖をある平面上から錘をつけて垂らすことによってできた模型を参考に構造計算を行ったのではないかと考えられている。当時の模型は現存しない

が、ある大学の研究チームが復元に成功した模型を、建物の内部で見ることができた。



午後、僕を含めた一部のメンバーは、団体を離れてバルセロナの郊外にいた。そう、バルセロナといえば、サッカーの超有名クラブ、「FCバルセロナ」の本拠地である。はっきり断言してもいい。今回の旅行、一番行きたかった場所はどこかと聞かれたら、僕は迷わずこの「Camp Nouスタジアム」の名前をあげる。12万人を収容出来る、世界最大のスタジアムだ。僕たちは23ユーロの入場料を支払い、中へ入った。ツアーでは、ミュージアムはもちろん、実際に使われている放送席やロッカールームなども見ることができる。試合を見るのもいいが、こうして裏側を覗いてみるのも、また楽しいものだ。(3年/大嶋啓五)

20日目 2013-08-31 フランス・パリ

パリ初日の自由行動でまず向かった場所がルーブル美術館だった。中は30分程度しか回る時間がなかったが、建築として様々な空間を体感できた。



入口となるガラスのピラミッドは縦方向にも横方向にも開放的で、地下がガラス面のおかげで全方向が明るい。この部分は近代的だったが、中に入ると王宮らしい装飾があった。

私は王宮などの華やかなデザインが好きで、特に天井や壁に対する装飾は日本ではほとんどないため感動した。繁栄を示す植物の動きや象徴する鷲とNのシンボルマーク、そして天井画があり、それらを個別で微妙に違うデザインにしている。

私に芸術から感じる力強さやその時代の人の努力が伝わってきた。ルーブル美術館は美術館そのものが芸術として創られた、そういった印象を感じた。(3年/池谷和己)

23日目 2013-09-03 フランス・パリ

最終日。私たちは朝一番にエッフェル塔にいった。朝の陽ざしが照りつける中、斜めに昇っていくエレベーターを片目に階段で上った。フランスはオスマンの都市計画で、凱旋門から放射状にブールヴァールと呼ばれる広い大通りを作り、路地を整理した。そのため迷いやすい。案の定どこ歩いているかわからなくなったけど、でも迷った先においしいパン屋さんでキッシュを食べることができた^^

そしてステンドグラスの綺麗なサントシャペル見学を経て、先ほど景色の奥に見えていたサクレクール寺院(下写真)にいった。丘陵地に位置していたため、エッフェル塔同様に階段を上るのが辛かった。中は暗めでロウソクが揺れていて、厳粛で清らかな雰囲気だった。一番気に入ったのは、前に広がる傾斜の芝。みんなここでおしゃべりしたり、寝ていたり、毎日が休日のように時間を感じさせない場だった。



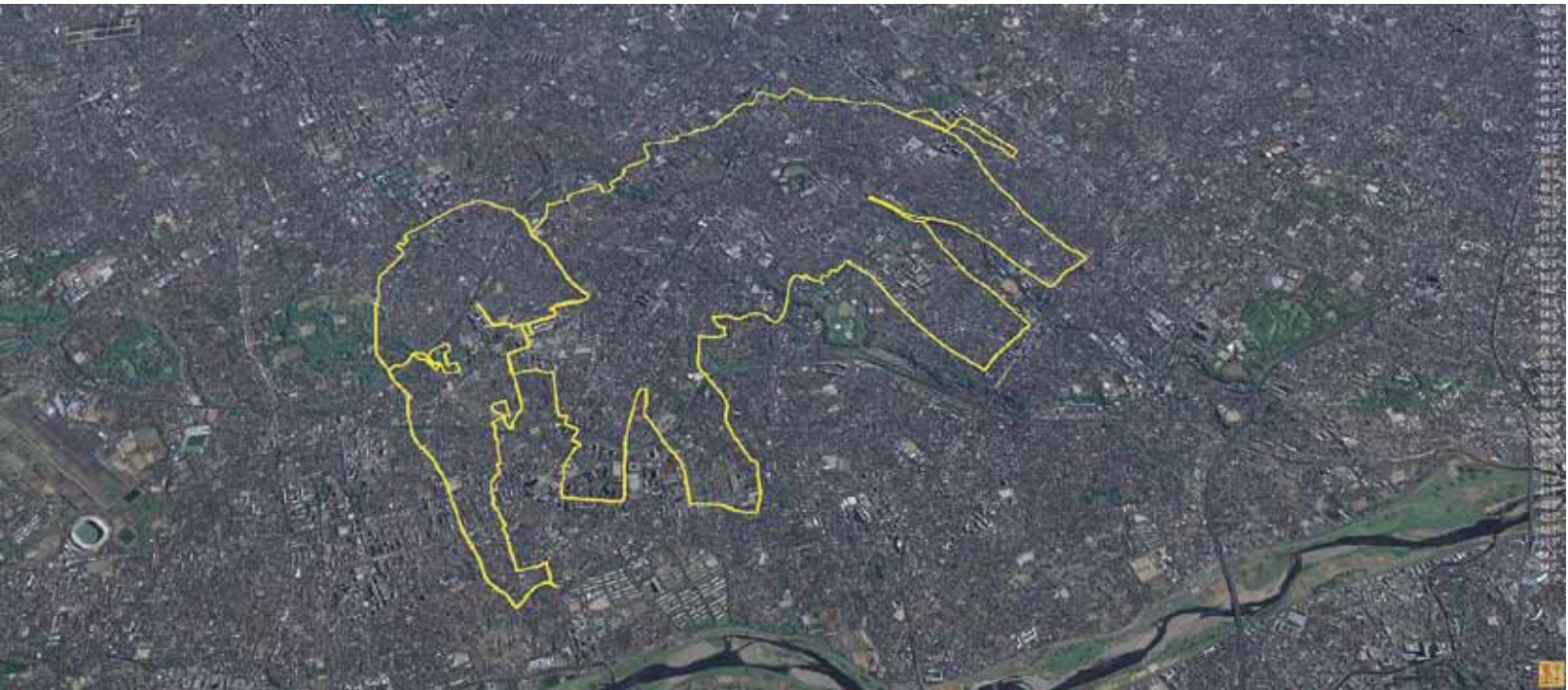
外へと飛び出していくテラスや自分の庭のような公園・広場が、ヨーロッパの生活を感じることができてとてもよかった。(3年/中辻千尋)

引率教員：重枝豊教授

3年/池谷和己、今吉洲人、大嶋啓五、加藤直史、落合恵子、川田実可子、菅亮輔、田中僚、小関真子、小林滯奈、豊澤杏美、中辻千尋、永田かほり、野口菜々子、水澤寛史、山口明德、野村由貴、濱野加奈子、松尾明穂、2年/小川大生、新保太基

毎号、一枚の建築写真！

A Photo of World Architecture vol.07 GPS Chijoe



名付けて「地ゾウ絵」(2004)。調布市、三鷹市、狛江市、世田谷区にまたがる、体長 5.5km のゾウを描いた。移動距離:42.35km、移動時間 3 時間 15 分、停止時間 1 時間 26 分。この時は、移動に自転車を使用した。(提供 = 石川初、出典 = 国土地理院、電子国土空中写真、Kashmir3D 利用)

GPS を持った人が地図を片手に道をひとつひとつ確認し、歩きながら、その軌跡を記録した。それが上の写真に現れた白いライン。そこから見えてきたのは、なんとゾウさんだったのだ！ この「**GPS 地上絵**」を描いたのは、ランドスケープアーキテクトで“GPS 地上絵師”を名乗る**石川初さん**。海外のアーティストの活動などに触発され、日本でも実践しはじめた先駆者の一人だ。

この「GPS 地上絵」づくりは、まず地図にとらめっこをしながら、その地図上に何を描くことができるのか、モチーフ探しからはじまる。大きな道路から細い路地や階段に至るまで、いろんな道を一筆書きのようにたどり、モチーフを探し出していく。モチーフが探し出せたら、今度は GPS と地図を片手に外へ。いよいよ本番だ。道を間違えてしまうとモチーフの絵が崩れてしまうので、進んでは止まり地図を確認。ひとつひとつ確認をしながら、輪郭となる線をなぞって歩いていく。

これまで、石川さんは、東京のあらゆる場所で、アヒルやゾウ、ブタなどを出現させている。地上に現れるものたちは、何とも愛らしい。この活動に賛同する人はどんどん増えていき、今では参加者を集い、みんなで歩いて「GPS 地上絵」を描くワークショップも開催されて

いる。また、弟子なる GPS 地上絵師たちも登場。各々が地図に向かいモチーフを探し出し、リアルな地上で線を描き楽しんでいるようだ。

また、石川さんは、ただ歩き、描くだけではない。歩いて周辺を観察するというフィジカルな感覚と地図・地形とを重ね合わせながら、常にそこに描かれる線の背後にある歴史的痕跡に目を向けている。感じることを考えることの横断が、絵を描くこと以上の楽しみを生み出し、人を惹きつけているのかもしれない。

今回の特集アンケートを読んでいると、日々、学生の皆さんが、駿河台を中心に移動している姿が目についた。もし、私たちがこれまでに自分の足でリアルに歩んできた道の全てを一本の線でたどってみたら、どんな軌跡が見えてくるだろうか。きっとその線の集積は、例えば日本の大きさに対して、何ともの細いものになるだろう。それが示すのは、私たちが経験していることの小ささかもしれない。普段の生活では意外と決まり切った道を歩くことが多い。しかし、どの街にもまだまだ楽しい物事があらゆる場所に存在する。知らない街、知らない道を歩くきっかけとして、こんな楽しい試みは、他になさそうだ。

Contents

02 [SPECIAL FEATURE]

学生生活実態調査 2014

- 僕たち私たち 9 人のリアルな生活アンケート -

13 [NEWS & TOPICS]

建築家・隈研吾さんを審査員に迎えた「第 5 回日本大学桜門建築会学生設計コンペティション」開催

「第 60 回日本大学全国高等学校・建築設計競技」開催

建築学科主催「OB と学生との懇談会 2013」開催

オウケンカフェレポート

他

18 [REPORT]

建築学科 | 2013 年度海外研修旅行

22 [A PHOTO OF WORLD ARCHITECTURE]

vol.07 GPS Chijoe

24 [EVENT REVIEW]

mosaki のイベント巡礼 vol.7

「福島第一原発観光地化計画展 2013 「フクシマ」へ門を開く」

SHUNKEN

2014 Jan. Vol.41 No.4

「駿建」

発行日：2014 年 1 月 20 日

発行人：岡田章

編集委員：佐藤慎也・橋本修・田嶋和樹・長岡篤・古澤大輔・中田弾・田所辰之助・高田康史

編集・アートディレクション：大西正紀 + 田中元子 / mosaki

発行：東京都千代田区神田駿河台 1-8-14 日本大学理工学部建築学科教室

TEL：03(3259)0724

URL：http://www.arch.cst.nihon-u.ac.jp

※ご意見、ご感想は右記メールアドレスまで<shunken@arch.cst.nihon-u.ac.jp>

event review

mosakiのイベント巡礼 vol.7

福島第一原発観光地化計画展 2013「フクシマ」へ門を開く

2013年12月24日(火)～28日(土) 会期終了

被災地を観光地化する意味とは

♥ 作家、思想家の東浩紀さんは、2012年に「福島第一原発観光地化計画」を立ち上げたそうだけど、これって実際、何なの？ 仮設暮らしだったり、放射能汚染や風評被害で困っているひとだって今もたくさんいるのに、観光地化だなんて。不謹慎じゃない？

♣ それ、それ。不謹慎とか、被害者の身になって寄り添うとか。福島の現実的な復興を鑑みるとき、そういうことだけで本当にいいのかっていう問いかけでもあるんだよ。広島の大原ドームは世界遺産になっているし、チェルノブイリでも観光ツアーが行われている。観光地化することは、単に経済的な復興だけでなく、原発事故を風化させないとか、後世まで伝えるとか、そんな効果も考えられるんだ。東さんは、事故から25年が経過する2036年に照準を合わせて、この計画を提唱している。

♥ なるほど。海外にもよくある、戦争の跡地や災害の跡地を見学すること、いわゆるダークツーリズムってやつだね。娯楽としての観光であるツーリズムと、学習寄りのダークツーリズム、どちらも日本語にすると「観光」になっ

ちゃうんだね。ややこしいな。

♣ 今回の展覧会『「フクシマ」へ門を開く』の会期は5日間しかなくて、しかも年末でほとんど告知もされていなかったようだけど、会場にはお客さんもチラホラいるね。

♥ わ、第1会場に入るといきなり、床に置かれたでっかい模型が！（下写真）



♣ 建築家・藤村龍至さんによる「ふくしまゲートヴィレッジ」の模型だね。これは現在、東京電力が福島第一原発事故の対応拠点にしている「Jヴィレッジ」を、ビジターセンターにしようというもので、宿泊施設や学習施設が計画されているんだ。

♥ へえ、具体的なんだね。梅沢和木さんの絵画「ツナミの塔 2036」（右写真）はすごい迫力だったし、小嶋裕一さんの映像や新津保建秀さんの写真による、チェルノブイリ取材のドキュメントも見応えがあった。歩いてすぐ

の第2会場では、カオス * ラウンジが「楽しい福島第一原発麻雀化計画」と銘打って、なんと原発事故にちなんだ麻雀牌や独自ルールで、麻雀してる！（下写真）



♣ タブーを破ることに、とことん挑んでいるよね。決して、ただ茶化しているわけではなくて、彼らは福島で何が起きたかということをしつかり把握したうえで、計画の提唱や問題提起をしている。展示作品を見れば見るほど、そのことがよくわかる。

♥ これ、福島でこそ開催すればいいのに。現地の人々に理解されるプロセスは、険しいだろうけれど、本気の計画なら、避けて通れないと思うんだ。（文責：♥ 田中元子 / ♣ 大西正紀）



計画がより具体的にまとめられている書籍「福島第一原発観光地化計画 思想地図β vol.4-2」も読んでみよう！津田大介、速水健朗、堀江貴文他、建築関係では、八東はじめや五十嵐太郎も登場します。

Recommend | 2014年1月 - 3月

【1】「人間のための建築 建築資料にみる坂倉準三」| 国立近現代建築資料館 |

会期：2013年11月27日(水)～2014年2月23日(日)

東京・湯島に2013年5月に開館した国立近現代建築資料館（設計：安藤忠雄）にて、建築家・坂倉準三（1901-1969）の展覧会が開催中。名作と呼ばれる神奈川県立近代美術館（1951）を中心に、原図や当時の写真、建築資料によってデザインの中心に人間を据える坂倉の考え方や大胆な発想へ迫る。

【2】「磯崎新 都市ソラリス」| NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] |

会期：2013年12月14日(土)～2014年3月2日(日)

建築家・磯崎新が監修した「海市 もうひとつのユートピア」展（1977）が、ICCのオープニング企画展として開催されてから17年。ICCは、磯崎新を再び迎え、2014年の今、これまでの都市デザインやアーキテクチャ論を超える新たな都市像を考える場として本展を企画した。会場は、1960年代から現在に至るまで磯崎手がけてきた都市計画プロジェクトの変遷をたどりながら、複数の参加者の介入によって変化していくワーク・イン・プログレスの展示が展開される。

【3】「日本の民家 一九五五年 二川幸夫・建築写真の原点」| 青森県立美術館 |

会期：2013年12月14日(土)～2014年3月30日(日)

建築写真家として、また建築雑誌GAを中心とした編集者として、日本の現代建築を牽引してきた二川幸夫（1932-2013）の展覧会が、東京から巡回し青森県立美術館（設計：青木淳/2005）にて開催。1955年、二川が20歳前後に日本の民家の最期の美しさを捉えた写真が約70点展示される。会場構

【編集後記】

「駿建」をつくっているときはいつも、学生の皆さんや先生方など、色んな方の顔が浮かびます。そして、どういうコンテンツが、これを手に取る人たちの気持ちのスイッチを入れることができるのか？ どうすれば、普段会話をすることもない知らない者同士のことを知る機会になるのか？ といったことを考えながら、編集委員の先生方と共に企画を練っています。今回の特集のきっかけは、非常に素朴なものでした。そもそも学生の皆さんは、大学だけではなく、全体としてどんな生活を送り、どんなものに触れているのだろうか？ やってみてビックリしたのは、登場する9人の皆さんがそれぞれにナント魅力的なことかと！もしよければ、皆さんも自分でアンケートに答えてみてください。そして、9人と同じ部分、違う部分を見てみる。そこに現れるあなたと他者との差異は、きっと“あなたの魅力”そのものに違いありません。（大西正紀 + 田中元子 / mosaki）